

1学年通信

山形県立米沢興譲館高等学校
1学年
第25号
2016(平成28).1.17(火)発行

年末(12/26,27)実施の山形県医進塾への参加者感想

今週からスキー授業スタート！

12月26～27日の2日間、山形県青年の家で実施された「医進塾」に1学年から4名の生徒が参加してきました。

この行事は、現役医師である慶應義塾大学医学部教授 小林英司 先生による講演や県立中央病院の施設見学、医学部に通う大学生の講話などを通じて、将来医師を目指す高校生に医療に携わる者としての心構えや医学部進学へ向けて為すべきことなどを知ってもらうことを目的に山形県教育委員会で開催しているものです。

1泊2日でこの行事に参加してきた4名の生徒の感想を掲載します。都合により参加することのできなかった医学部進学希望者はもちろん、医学部進学希望者でなくても4名の生徒が感じてきたことを共有することで、自らが目指す進路への意識が高まるきっかけになると思いますので、是非読んでみましょう。

僕は今回この医進塾に参加して、改めて学力が足りていないことがわかりました。しかも、それだけでなく、積極性も劣っていると強く感じさせられました。

研修の1つとして、面接の練習がありました。その中で希望者を募ったときに出てくる人は山東や鶴南の人ばかりでした。僕もしてみたいという気持ちがありましたが、どうしても人前で質問にしっかりと答える自信がなく、結局できませんでした。また、県立中央病院で質問するときも周りの人の積極性に驚きました。

2日間、同じ目標に向かって頑張る人たちと過ごしたことで、さらに努力しなければと実感しました。是非、次回も参加したいです。これからは学力だけでなく、積極性も身につけたいと思います。

(1-2 S. Y)

医進塾では、医療関係の人からのさまざまな講演を聞いたり、県立中央病院を見学したりしました。

私は、病院見学で様々な検査を行う「検体検査室」や早く産まれてしまった赤ちゃんが入院する「NICU / GCU」を見せてもらったことがとても印象に残っています。やはり普通に生活している中では、そのようなところには入ることができないので、行って貴重な体験ができたと思っています。

他の高校の人とも交流ができ、高校事情や学習事情について聞くことができたのも良かったです。とても刺激を受けました。

1泊2日でしたが、あっという間に過ぎ、様々なことを体験できて行って良かったと思いました。

(1-1 I. Y)

私は、今回の医進塾でとても思い出に残っている研修が2つあります。

1つ目は班ごとの県立中央病院見学です。私の班では放射線治療と断片的ではありますが、実際の手術現場を見学しました。特に、外科医の副院長からの話で「最近の工業は発達していて、直径1cm程の穴を開けるだけで癌の摘出手術が一通りできてしまいます。」というのが頭に残っています。

私は外科医志望なので、プロの方から手術の話を知ることができたのはまたとない良い機会でした。

もう一つは、現役の山大医学部生との座談会形式での質問会です。人生の先輩でもある方々の話は1時間以上経っても質問が尽きませんでした。高校のうちにやると大学で役立つこと、効率の良い勉強の仕方、大学での心構えなどオープンキャンパスでは聞けなかったことをたくさん知ることができ、貴重な体験をすることができました。私は、今まで「大学入試まであと2年ある」と思っていたのですが、今回の医進塾を通して「大学入試まであと2年しかない」と思うようになりました。今の自分に足りないことが多すぎて、2年で間に合うのか不安にもなりました。また、県立中央病院の院長の講演で『良い医者はいいさつができる』とお聞きしたので、日常から心がけ、医学部生に一歩近づけるようになりたいです。最後に、もう二度とできない本当に貴重な体験ができて、とても良かったです。必ず医者になります！

(1-3 M. R)

スキー授業における諸注意

今回の1年医進塾を通して、私は医療の世界のさまざまなことについて知ることができました。医進塾は1泊2日で行われ、さまざまな催しが設けられていました。

医師による講演では、慶應義塾大学教授の小林英司氏が講演し、医師を志した理由、個人・集団面接のテクニックについて知りました。特に、この講演ではスマホやPCを用いて、医学部に関するサイトを検索したり、動画を使って講演をしていたりすることがとても印象的でした。

「県立中央病院見学」では、病院のスタッフが先導し、施設ごとに説明を聞きながら病院内を見学しました。県立中央病院の魅力や特色を知ることができました。また、院長の講演を通して、この病院に研修する利点、医師になるために必要な要素などについて理解することができました。

「ミーティング」では、他校の人と積極的に関わり合い、お互いに仲良くなることができました。また、グループに分かれ「理想の医師像」について懸命に考え、発表で大勢の前でも自分の伝えたいことをしっかりと伝えることができました。

「話題提供」では、山形県の医師数の実態や山形大学・自治医科大学・東北医科薬科大学の入試形式について知ることができました。

「山形大学医学部生からの講話」は医学部生に聞いてみたいことを質問し、それに医学部生が答えてもらうという形で、医学部生の生活や医学部受験のことについてたくさん聞くことができました。

この2日間は、私にとって有意義な時間だったと実感しました。この経験を糧とし、これからも医師になれるように頑張っていきたいと思います。
(1-5 A, T)

スキー授業が19日（木）から始まります。

すでに体育科から諸注意についてのプリントが配付されていますが、再確認ということで体育科から配付されたプリントの一部抜粋を右に掲載します。（詳細は体育科から配付のプリントで確認すること。）怪我や事故のないように充分気をつけて授業を受けるとともに、持ち物や服装なども確認しておきましょう。

1. 日程

	1回目（米沢）	2回目（米沢）	3回目（天元台）
1年1・2・3組	1月19日（木）	2月2日（木）	2月16日（木）
1年4・5組	1月20日（金）	2月3日（金）	2月17日（金）
学校発	9：40（時間厳守 ※着替え等をすべて終えてから乗車）		
スキー場到着	10：20（全体指導10：30，班別指導10：40～）		
スキー場発	15：15		
学校着	15：55		

2. 準備・点検・調整

- ◎ 各自が授業前日まで戸外で実際に、授業できる状態で動いてみることを。
- ◎ スキー・ストック・ブーツは、教室、廊下まで持ち込まないこと。
- ◎ 遠距離通学等でスキー・ストック・ブーツの持帰が大変な者は、エントランスコート内のスキー置場に置くことができる。
- ◎ スキー授業当日の朝は、スキー用具をあらかじめ昇降口わきに出しておくこと。
- ◎ 天元台スキー場では（レンタルスキーの者、見学者以外の者は）帰りに登山道を滑ってきます。安全のため、弁当等の荷物については背中に背負えるバッグ等（リュックのような物）に入れて持ってきて下さい。
- ◎ 自分の持ち物がわかるように、記名や目印を必ず付けること。

3. 服装

- ◎ 寒くない格好・服装。特に帽子、手袋、ゴーグル(サングラス)を絶対に忘れないこと。
- ◎ 帽子は、つばが付いていないニット帽を基本とする。風などでとれるものは不可。

4. バス車内

- ◎ 授業のできる服装で乗り込むこと。
- ◎ スポーツマネージャーは往路・復路ともに出発の際には必ず人員点呼を行うこと。
- ◎ 付添いの先生の注意・連絡・指示は静かに聞くこと。
- ◎ 授業の一環なので、大声で騒いだりしないこと。
- ◎ スキー靴への履き替え、手袋・ゼッケン・帽子の着用など授業の準備をすること。
- ◎ 往復が同一のバスとは限らないので、荷物の管理には十分に注意すること。

5. 授業

- ◎ 公共の場であり、衝突事故等の頻度が高いので、担当教員の指示に従い安全に関しては特に注意を払うこと。
- ◎ 事故にあった場合・ケガをした場合は、周囲の人にわかるように表現し、担当教員にそのことが伝わるようにすること。また、相手がある場合ケガ・破損の程度を把握し、お互いその後で連絡が取れるように、所属、名前、電話番号を交換すること。
- ◎ 授業終了後は、各自の荷物をまとめ、スキーをバスに入れて乗車すること。
- ◎ スキー授業は、6時間扱いで行っているため、欠席は極力しないように体調管理に気をつけること。

6. その他

- ◎ 貴重品を学校に置かないこと。
- ◎ 挨拶の励行。 バス乗車／下車 リフト乗り場 担当の先生 出身校の先生